

(目的) 意識調査をもとに、米国、中国、日本の母親のしつけ観や子供への期待感など子育てについて比較し、日本の子育ての特徴と課題を明らかにした。

(方法) 72項目からなる質問紙を作成し、米国はカリフォルニア・ロサンゼルス、中国は北京及びその周辺地域、日本は宇都宮及びその周辺地域と町田市 of 保育所や幼稚園に入所している3～5歳の幼児の母親を対象に調査を実施した。

(結果) ①しつけ観についてみると、米国では「Obey parent」を重視しているのに対して、日本や中国では「社会的なルールを守ること」をしつけの優先課題としている。②性格については米国、中国、日本とも「正直」であることを期待するものが最も多い。しかし、米国では「責任感」において、中国では「創造力」において他国に対して有意な傾向を示しているのに対して、日本ではばらつきが大きく特徴的な傾向はみられなかった。③職業に対しては、米国の母親は明確な期待をもっていて、約6割の母親は「教師・医師・研究者」などの知的労働者になって欲しいと願っている。これに対して中国の母親の回答は職業に対する強い期待を持つ者と特別に期待を持たない者に2極化されている。期待を持つ者の多くは米国と同じく「教師・医師・研究者」になることを望んでいる。これに対して日本では「特にない」と回答した母親が6割を越えている。④子供のしつけについてみると、米国では自立のための訓練、例えば排泄のしつけなどを重視しているのに対して日本では約8割が「ゆっくりすればよい」と回答している。しかし「好ましくない行動」に対しての日本の親の態度は、米国や中国よりも厳しい。